

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 黒畑 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

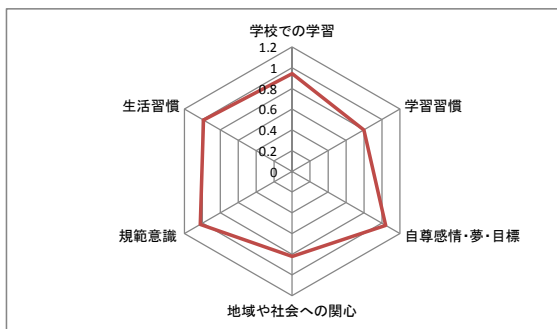
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや下回っている。相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題と漢字を正しく書く問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「読むこと」の問題の正答率が高く、登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができていた。	
	努力が必要な問題	漢字を正しく書く問題に課題があり、新出漢字や既習の漢字を繰り返し練習する必要がある。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の問題の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	話合いの参加者として、質問の意図を捉えることができていた。	
	努力が必要な問題	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題に課題がある。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや下回っている。特に、「図形」「量と測定」に関する問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「数と計算」の領域の問題の正答率が高く、基礎的・基本的な知識の定着が見られた。	
	努力が必要な問題	直径の長さと同周の長さの関係と単位量当たりの大きさの問題を、苦手としている児童が多いことが分かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや下回っている。特に、「図形」「量と測定」に関する問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができていた。	
	努力が必要な問題	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす問題に課題がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや下回っている。特に、「生命」「エネルギー」に関する問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察することができた。	
	努力が必要な問題	人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	自尊感情・夢・目標が全国を上回っている。特に、自尊感情は高く、自信を付けている児童が増えているので、学力・体力向上に結び付けていく必要がある。
○	家庭学習を1時間以上行っている児童の割合が全国平均より下回っている。「家庭チャレンジハンドブック」等を活用して、家庭学習の定着を図る必要がある。
○	「携帯スマホ電源10時OFF」や「規範意識育成事業」等の取組により、規則正しい生活習慣が身に付いてきた。
○	地域の行事に参加する児童が増えた。
○	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 授業開始5分を利用して、フラッシュカード等を用いて反復練習を行い、新出漢字や既習の漢字の定着を図る。
- 黒畑タイムを活用し、「図形」や「量と測定」に関する知識・技能の定着を図る。
- 毎時間、各教科で思考力・判断力・表現力を育成する授業を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭チャレンジハンドブック」や「家庭学習のすすめ」で紹介された学習の意義や学習方法を、学級懇談や個人懇談で紹介する。
- 携帯・スマホの使用時間やフィルターの取付など各家庭でルールをきちんと確認し、管理を徹底する。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」を合言葉に、基本的な生活習慣の見直しを図る。